

はじめに、

私の実家はペンションを運営している。ペンションとは洋風の外観を有し家庭的な雰囲気の中で比較的安価に宿泊可能な小規模宿泊施設である。地方田舎の観光地には中小規模の旅館・民宿・ペンションなどの宿泊施設が多く存在し、地方観光産業の要となっている。私の出身地である静岡県伊東市でもまたこのような宿泊施設が観光客の拠り所となっているのである。しかし私は、自分の実家に物心ついたころから違和感を覚えていた。実家がペンションであるということ、またそれを手伝わなければならないという事実、川奈という地域でのあり方。このように私が抱える違和感は数知れない。本研究が私が持つ恣意的であり主観的な視点を細解していくことで、社会性を帯びた提案に発展させていくという一つの試みである。



違和感 ×85

ペンションの存在意義
なぜ手伝わなければならないのか
温泉がある
地域からの孤立感
なぜペンションなのか
みかん農園
看板の書き
ここで暮らす意味
立地
配置計画
ピロティ
ヤシのき
etc....

ソース ×127

ペンションの存在意義
なぜ手伝わなければならないのか
温泉がある
地域からの孤立感
なぜペンションなのか
みかん農園
看板の書き
ここで暮らす意味
立地
配置計画
ピロティ
ヤシのき
etc....

データカード ×40

Table with 40 columns and 4 rows, containing various data points and icons related to the pension's design and context.

ペンションのあり方 ×8

- 1 1×10×31=34×3×36 広がりのある建築
2 2×4×35×6×15×23 周囲と建築を近づける
3 33×28×5×22×27 新しい建築として
4 9×14×17×16×32×24 銭湯としての温泉
5 38×7×18×8 地域の一員として
6 12×39×40×11 川奈の玄関口として
7 20×25×21×26×37 川奈のアイコンとして
8 19×29×30×13 伊東市の中の川奈

実家への違和感 ▶



日下部力也 24歳
ペンション日下部の息子

実家への違和感をひもとく

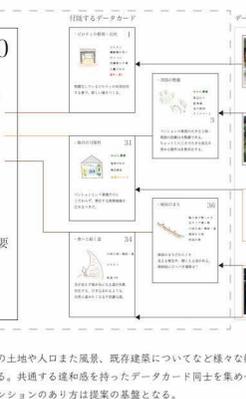
- 地方小規模宿泊施設における存在意義の証明 -

違和感をひもとく、とは
自分の中の違和感や建物、周辺環境、時代背景とどのような関係があるのか考察すべく、違和感の列挙・分類、それらに基づくソース・データを収集し、提案の基礎となるデータカードとして蓄積する。違和感と、それに関するソース(建物や周辺環境や時代背景に対しての生データ)を交えて考察することにより、一つのデータとなる。それらを組み合わせることによってペンションのあり方(提案の指針)を決定する。自身の違和感を提案の基礎に変換し、提案、ペンションの存在意義へと発展させる過程を「違和感をひもとく」と呼ぶ。

ペンションのあり方決定とプロセス



距離感の作り方 10
オーナーの人格
意外に狭い
食卓のアレビ
傾斜な土地
お客様とオーナーの距離感、また地域の方との距離感
心もそうだが、空間的な距離も重要
プライバシーとパブリック



研究と設計について



データの更新



1×10×31=34×3×36
広がりのある建築
違和感を感じている生データ
地域の存在意義とソースとして蓄積する。周辺環境や時代背景を考慮し、提案の基礎となるデータとなる。

ペンションのあり方 = ?



### 新しいペンションの定義

ペンションには明確な定義づけは存在しない。  
冒頭で述べた  
「ペンションとは洋風の外観を有し家庭的な雰囲気の中で比較的安全に宿泊可能な小規模宿泊施設である。」  
というも明確な定義というわけではない。  
何か欠けていてもペンションだと言えばペンションになるであろう。  
**逆に言えばこの曖昧さがペンションの一つの定義と言える。**  
価格は高過ぎず、安すぎず。雰囲気は堅苦しくない、かといって派手というわけでもない。  
全てにおいて曖昧であろうというのが。  
私はこのペンションのちよと良き一つ新しい項目を加えることにした。  
それは「ちよと良い距離感」と言うものだ。  
オーナーとお客さんが従来のよりちよと良い距離感を築くことができるのはペンションの良きであった。  
そこに地域住民との距離感を築くことができる仕組みを取り入れる。  
お客さんは地域について雑誌やスマホからは得られない情報を聞くことができるかもしれない。  
逆もまた然りであり、地域の方が得る情報もあるだろう。  
決して強制はしないがそんな情報共有が始まることを期待している。  
ペンション自体も地域とちよと良い距離感を築き始める。  
地域の行事への参加（温泉の解放など）や日頃からの施設の利用、地域の中の日常でありながら、  
非日常を味わえるちよと良い距離感の施設となる。  
**ちよと良い距離感と言うのはペンションの新しい定義である。**

### 未来を見据えたプログラムと新しい収益

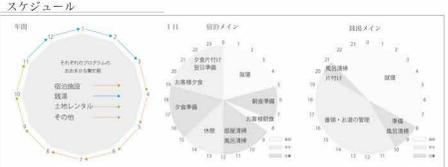
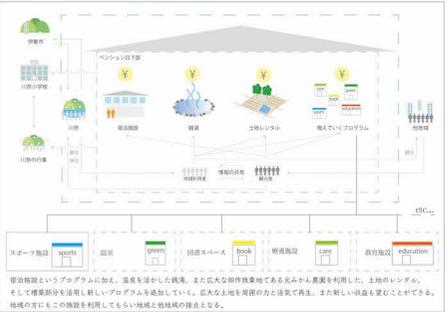
**新しいシステム**  
決定したペンションのあり方8項目を、データカードを元に解体し、提案の基礎を40個抽出する。それらを組み合わせながら具体的な提案へと発展させ、ハードやソフトの境界を超えた1つの新しいシステムを提案する。私が抱いていた数多くの違和感は、一つ一つ等価に扱い紐解くことで提案の材料となった。

**建築スケール リノベーション**  
既存建物へのリノベーション（増築と減築）を行い新しい建築へと昇華させる。

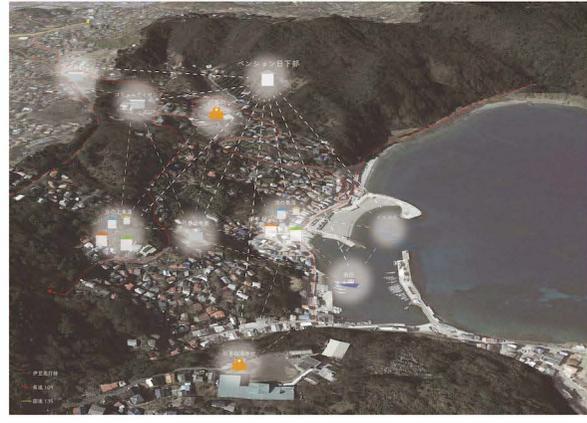
**敷地全体スケール マスタープラン**  
畑作放棄地の利用方法を、未来を見据えた建築的解決のマスタープランとして提案。

### 新しいシステム

### 未来を見据えたプログラムと新しい収益



### それぞれとの距離感と立ち位置



### 設計

**伊東スケール 川奈のあり方**  
伊東市の中の新しい川奈の立ち位置を、ペンションの存在ありきで考察する。

**川奈スケール 川奈でのあり方**  
集落や他施設とのちよと良い距離感新しいネットワークを創出する。

### 「ちよと良い距離感」

### 存在意義

### ペンション日下部の存在意義

ペンション日下部の存在意義とは、私の中で重要な立ち位置であったこの違和感は、その他多くの違和感と共に紐解かれていくにつれて、少しずつ明確になっていった。  
このペンションは地域の施設の一つであり、他地域との拠点であるべきなのだ。  
川奈を売りにし他地域よりお客さんを招き商売していた小さな宿泊施設は川奈を知らなすぎた。  
川奈はそもそも完全なる観光地ではない。  
閑散期もなればお客さんが地域にお金を落とすといつてくれるところもほとんどない。  
他地域の人を招き入れるだけでは、地域も、何より私たちも上手く利益に繋げることが難しい。  
そこでここには地域に視点を当てるといふ提案をした。  
温泉の純湯としての利用、畑作放棄地の土地レンタル、余る資源を解放するのだ。  
しかし解放といっても無料ではない、商売として成り立つようにする。  
そうすることで、先に述べた「ちよと良い距離感」というものが生まれる。  
近すぎず、遠すぎない、距離感であり、双方に利益がある関係である。  
ここに他地域のお客さんも加わり、違う文化に触れることで凝り固まった川奈という存在を少し崩すことができる。密な交流は強制せずちょっとした情報共有が理想である。  
従来の通り宿泊施設としての営業は続け、川奈と他地域その間で双方に目を向けながら  
**ちよと良い距離感であることがこのペンション日下部の存在意義である。**

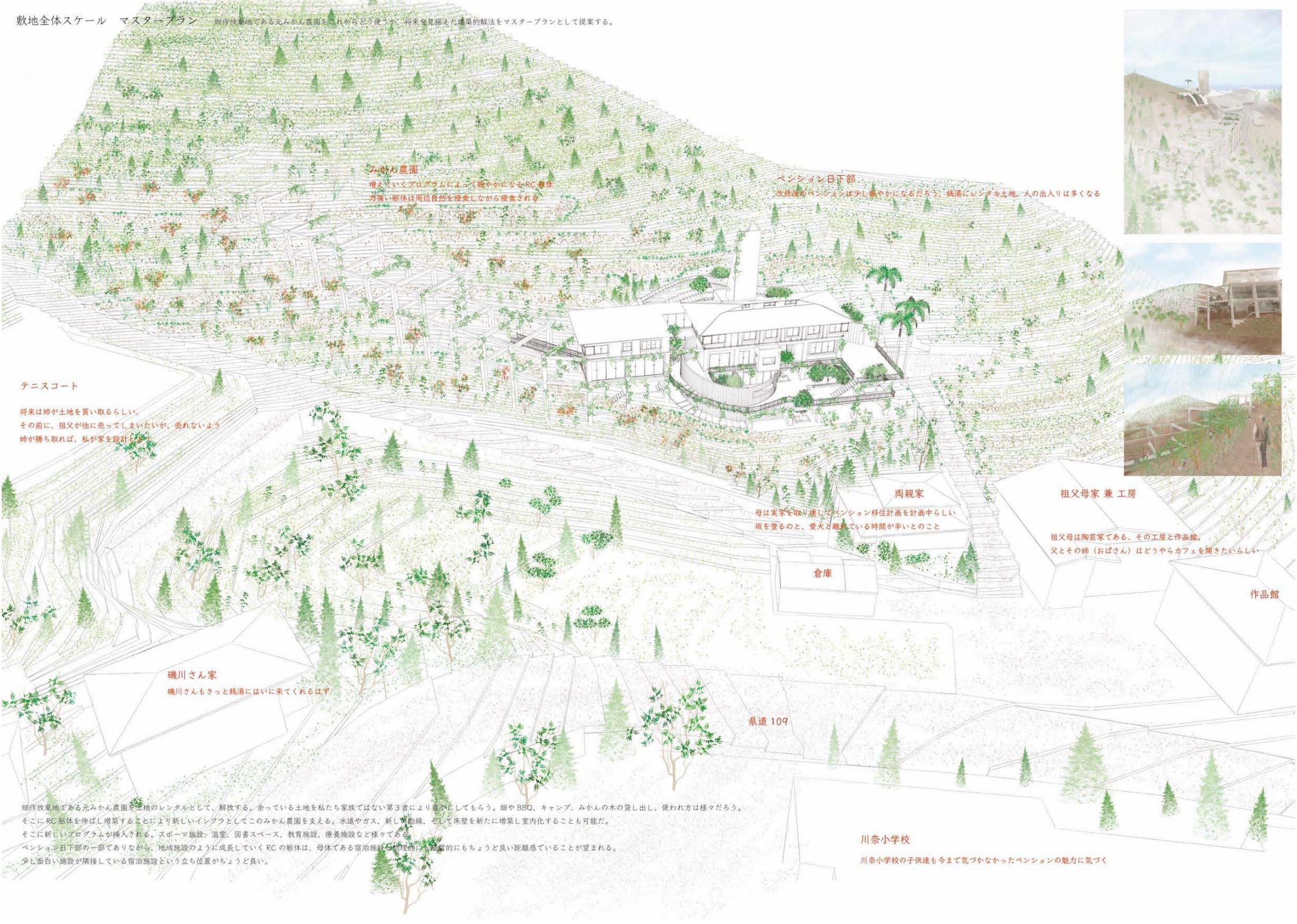
# 建築スケール リノベーション

既存建物へのリノベーション（増築と減築）を行い新しい建築へと昇華させる。



既存の水平垂直ラインの美しさを活かして、増築を行う。ファサードを削ぎぬき、新しい5つの要素を挿入。これまでのベンションの姿を残しつつ、少し異様な姿となったこの建築は、どこか懐かしくも新しい。遠和感を解きほかひ上がった。これらの要素はリノベーションを新しい建築にする。それぞれは独自の役割を持ち、また合わさることによってまた合わさることによって空間を大きく変える。異様な見た自からは想像もつかないほど快適なベンションとなった。





**みかん農園**  
増え続けるプログラムによって賑やかになるRC躯体  
力強い躯体は周辺自然を侵食しながら侵食される

**ペンション日下部**  
改修後のペンションは少し賑やかになるだろう、銭湯にレンタル土地、人の出入りは多くなる

**テニスコート**  
将来は姉が土地を買い取るらしい、  
その前に、祖父が他に売ってしまいたいが、売れないよう  
姉が勝ち取れば、私家が設計

**向親家**  
母は実家を取り壊してペンション移住計画を計画中らしい  
坂を登ると、愛犬と戯れている時間が辛いとのこと

**祖父母家兼工房**  
祖父母は陶芸家である、その工房と作品館。  
父とその姉（おばさん）はどうやらカフェを開きたいらしい

**磯川さん家**  
磯川さんもきつと銭湯にはいに来てくれるはず

畑作放棄地である元みかん農園を土地のレンタルとして、解放する。余っている土地を私たち家族ではない第三者により買ってもらおう。畑やBBQ、キャンプ、みかんの木の貸し出し、使われ方は様々だろう。  
そこにRC躯体を伸ばし増築することにより新しいインフラとしてこのみかん農園を支える。水道やガス、新しい動線、そして床壁を新たに増築し室内化することも可能だ。  
そこに新しいプログラムが挿入される。スポーツ施設、温泉、図書スペース、教育施設、療養施設など様々である。  
ペンション日下部の一部でありながら、地域施設のように成長していくRCの躯体は、母体である宿泊施設と物理的・精神的にもちょうど良い距離感を持っていることが望まれる。  
少し面白い施設が隣接している宿泊施設という立ち位置がちょうど良い。

**川奈小学校**  
川奈小学校の子供達も今まで気づかなかったペンションの魅力に気づく

